

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2012年 7月

「神の啓示（Ⅱ）」「恵みの御霊」「ヤコブの悩み（Ⅰ）」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「神の啓示(Ⅱ)」

4

朝のマナ

「恵みの御霊」

7

神の驚くべき恵み

現代の真理

「ヤコブの悩み(Ⅰ) —大患難(大いなる悩み)の時—」

39

最後の出来事

力を得るための食事

「イギリス風レンズ豆ローフ」

46

お話コーナー

「ものごとをありのままに見る」

48

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：support@4angels.jp

発行日 2012年6月29日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

イラスト：comstock.com p.1; Gettyimages p.1;
Sermonview p.9

神の豊かな愛の物語

マリヤは、救い主の死体に惜しまずふりかけようと思っていたかおり高い献げ物を、主の生きたおからだにそそいだのである。葬りのときだったら、そのかおりは墓の中にたちこめるだけであるが、いまそれは、彼女の信仰と愛についての確証とともに主の心をよこぼせた。アリマタヤのヨセフとニコデモは、愛の献げ物を、イエスが生きておられる時にささげなかった。にがい涙とともに、彼らは、主の冷たい、意識のなくなったおからだのために高価な香料を持参した。香料を墓に持って行った婦人たちは、主がよみがえられたので、自分たちの用事がむだであったことを知った。しかしマリヤは、救い主が彼女の信心をみとめてくださることができる間に、主に愛をそそぐことによって、葬りのために主に油をそそいだったのであった。こうして主は、その大いなる試練という暗黒の中を進んで行かれたときに、この行為の思い出、すなわちあがなわれた者が永遠に主に対してささげる愛の保証をたずさえて行かれたのであった。……

マリヤは自分の愛の行為の意義を十分に知らなかった。彼女は自分を非難する人たちに答えることができなかった。彼女はイエスに油をそそぐのになぜそんな機会をえらんだのか説明できなかった。聖霊が彼女のために計画され、彼女はそのささやきに従ったのである。靈感はことさら理由を説明なさらない。目に見えない存在、それが心と魂に語り、心にはたらきかけて行動させる。それだけで正当な理由である。

キリストは、マリヤに彼女の行為の意味をお告げになり、そのことによって、ご自分が受けられたよりも多くのものをマリヤにお与えになった。「この女がわたしのからだにこの香油を注いだのは、わたしの葬りの用意をするためである」とキリストは言われた。……

「よく聞きなさい。全世界のどこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、この女のした事も記念として語られるであろう」。将来をごらんになって、救い主は、福音について確信をもって語られた。福音は全世界にのべ伝えられるのであった。そして、福音がひろがるかぎりどこまでも、マリヤの献げ物はそのかおりを放ち、人々の心は彼女の自然に発した行為によって恵まれるのであった。国々は起り、そして倒れるであろう。君主たちと征服者たちの名前は忘れられるであろう。しかしこの婦人の行為は、聖史のページに永久に残るであろう。世にあるかぎり、あの割られた香油のつばは、墮落した人類に対する神の豊かな愛の物語を告げるのである。(各時代の希望中巻 386-387)

創造主にして命の与え主なるキリスト



「神の啓示 (II)」

自然は神ではない

神について真の知識を持っている人々は、物事の法則や自然の営みに夢中になるあまり、自然において絶えずなされている神のみ働きを見過ごしたり、認めるのを拒否したりすることはない。自然は神ではないし、神であったこともない。自然の声は神を証しているが、自然は神ではない。このお方の創造されたみわざは、単に神のみ力に対して証を担っているだけである。神格が自然の創始者であられる。自然界それ自体には、神がお備えになる力以外のものは何もない。個性をもった神がおられ、個性をもった御子キリストがおられる。そして神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。」(ヘブル 1:1-3)。

詩篇記者は、「もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをし

めす。この日は言葉をかの日につたえ、この夜は知識をかの夜につげる。話すことなく、語ることなく、その声も聞えないのに」と述べている(詩篇 19:1-3)。自然界にあるこのような壮大な事物が神であると思う人があるかもしれない。それらは神ではない。天空にあるこれらすべての不思議は、単に自分たちに定められた働きをしているにすぎない。それらは主の代理者たちである。神は万物の創造主であると同時に、指揮者であられる。神なる存在が、ご自分の創造された事物を維持する働きに携わっておられる。山を支え、それらを決まった位置につり合いを保っておられる同じみ手が、太陽の周りの神秘的な軌道に諸世界を導いておられる。

神のみ言葉の中で言及されている個所を見出せない自然の営みはほとんどない。み言葉は、このお方が「太陽をのぼらせ」、雨を降らせると言明している。このお方は「もろもろの山に草をはえさせ」る。「主は雪を羊の毛のように降らせ、霜を灰のようにまかれる。主は氷をパンくずのように投げうたれる。……主はみ言葉を下してこれを溶かし、その風を吹かせられると、もろもろの水は流れる」(詩篇 147:8, 16-18)。「主は地のはてから雲をのぼらせ、雨のためにいなくまを造り、その倉から風を出される。」(詩篇 135:7)

聖書は、独立した自然の法則については一言も述べていない。神はご自分の計画を実行するための事物や特質を備えられる。このお方は植物が繁茂できるように、ご自分の代理者をお用いになる。このお方は新緑が萌え出て、地にその絨毯(じゅうたん)を広げられるように、また灌木や果樹がつぼみをつけ、花を咲かせ、実を結ぶことができるように、露と雨と日光を送られる。種がそれ自体で働くように作用が設定されているとか、葉がそれ自体で現れなければならないからそうなるのだと考えるべきではない。神にはご自分が制定された法則があるが、それらはこのお方がそれらを通じて結果をもたらされる僕にすぎない。一つ一つの小さな種が地を割って、命に芽吹くのは、神の直接の代理者を通してである。一枚一枚の葉が成長し、一つ一つの花が開くのは、神のみ力によってである。

人の身体器官は神の監督の下にある。しかし、それは動作を設定され、自分で動く時計のようなものではない。心臓が打ち、鼓動が続く、呼吸が続くが、存在の全体は、神の監督の下にある。「あなたがたは神の畑であり、神の建物である」(コリント第一 3:9)。神のうちに、わたしたちは生き、動き、存在している。

行動一つ一つ、呼吸一つ一つは、アダムの花に命の息を吹き入れられたお方の吸気―偉大なわたしは有るというお方、つねに存在しておられる神の吸気である。

昔の哲学者たちは自分たちの優れた知識を誇っていた。このことについて靈感を受けた使徒の理解を読んでみよう。「彼らは自ら知者と称しながら、愚かになり、不朽の神の栄光を変えて、朽ちる人間や鳥や獣や這うものの像に似せたのである。……彼らは神の真理を変えて虚偽とし、創造者の代りに被造物を拝み、これに仕えたのである」(ローマ 1:22-25)。人間の知恵では、世は神を知ることはできない。世の賢者たちは神の創造された技から神について不完全な知識を収集し、その後に自分たちの愚かさによって、彼らは自然の神よりも自然と自然の法則を高める。神がキリストのうちにあらわされたご自身の啓示を受け入れることによって神の知識を得ていない人々は、自然のうちに神の不完全な知識しか得ることができない。しかし、これまで神の高められた観念を与え、全存在を神のみ旨に調和させたこの知識は、人々を偶像礼拝者にしてしまうのである。自ら知者だと自称しながら、彼らは愚かになっている。

自分たちが神の代表者であり、み言葉が「神の本質の真の姿」だと宣言しているお方を別にして、神の知識を得ることができると思う人々は、賢くなることができるよう前に、自分自身の評価において愚かになる必要がある。自然からだけでは完全な神の知識を得ることは不可能である。なぜなら、自然自体が不完全だからである。自然はその不完全さにおいて神を表すことができない。それは神のご品性をその道徳的完全さにおいて表すことができない。しかし、キリストが個性をもった救い主として世に來られた。このお方は個性をもった神を表された。個性をもった救い主として、このお方は昇天なさった。そしてこのお方は昇天されたのと同じ個性をもった救い主として再臨なさる。このお方は御父の本質の真の姿であられる。「キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿って」いる(コロサイ 2:9)。

エレゲッド・メッセジ 1 巻 293 ～ 295

神の驚くべき恵み

God's Amazing Grace



7月 「恵みの御霊」

初めから

「なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである。」(ペテロ第二 1:21)

慈愛が絶えず表されることによって、墮落した人類のうちに神のかたちを回復する原則を基としているのが、福音の栄光である。この働きは天の宮廷で始められた。……神格は人類へのあわれみに揺り動かされ、御父、御子、聖霊は贖罪の計画の実行にご自身を捧げられた。(健康への勧告 222)

「罪がこの世にはいる前には、アダムは創造主と分け隔てのない交わりをしていた。しかし人間が罪を犯して神から離れてからは、人類はこの尊い特権から切り離されてしまった。しかし、救済の計画によって、地上の住民がなお天とのつながりを保つ道が開かれた。神は、聖霊によって人間と交わり、選ばれたしもべたちの啓示によって天来の光を世にお与えになった。(各時代の斗争順序文 1)

「はじめから、神は墮落した人類を救うご計画を完成するために人々を用い、聖霊によって働いてこられた。これは父祖たちの生活にはつきりあらわされていた。モーセの時代の荒野の教会に対しても、神は「良きみたまを賜わって彼らを教え」られた(ネヘミヤ 9:20)。使徒の時代にも、神は聖霊の力により教会のために偉大な働きをなさった。父祖たちをささえ、カレブやヨシュアに信仰と勇気を与え、使徒の教会の働きを効果的なものにした同じ力が、後につづくすべての時代に神の忠実な子らをささえてきた。ワルドー派のキリスト教徒が、暗黒の時代に改革の道を備える助けをしたのも、聖霊の力によるものであった。現代の伝道事業を確立するために道を開拓したり、聖書をあらゆる国家、民族の言葉や方言に翻訳したすぐれた人々の立派な努力も、同じ聖霊の力によるものであった。……

今日、十字架の使者たちは町から町へ、ある地方から他の地方へとキリスト再臨の道を備えに出ていく。……そして、彼らは、ペンテコステの日にみ霊を受けた人々と同じように、その光を輝かしつづけるならば、み霊の力を更に多く受け、こうして地は神の栄光に輝くのである。(患難から栄光へ上巻 50, 51)

御霊についてのキリストの約束

「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。それは真理の御霊である。」(ヨハネ 14:16, 17)

キリストは、ご自身をいけにえの供え物としてささげられる前に、ご自分に従う者たちに与える最も重要で完全な賜物をお求めになった。それは無限の恵みの資源を彼らの手のとどくところにもたす賜物であった。キリストはこう言われた、「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない、あなたがたのところに帰って来る」(ヨハネ 14:16～18)。

これより前に、みたまは世におられた。あがないの働きの最初から、みたまは人々の心に働きかけておられた。しかしキリストが世におられる間は、弟子たちはほかの助け手を望まなかった。キリストの存在が取り去られてはじめて彼らはみたまの必要を感じるようになり、そのときみたまがこられるのであった。

聖霊はキリストの代表者であるが、人間の個性を備えておられないので、これに拘束されない。キリストは、人性の制約を受けておられたので、どこへでもみずから行かれるわけに行かなかった。だからキリストが父のみもとに行かれて、地上におけるご自分の後継者として聖霊をお送りになることは彼らの利益であった。そうすれば、場所やキリストとの個人的接触などによる特典はだれにもないのであった。みたまによって、救い主はだれにでも近づくられるのであった。この意味において、主は、天にのぼられなかったとした場合よりも一層近く彼らのそばにおられるのであった。」(各時代の希望下巻 152, 153)

この約束はたしかに弟子たちのものであったのと同様に、今やわたしたちのものである。……教会員一人ひとりが神のみ前にひざまずき、御霊を与えていただけるよう熱心に祈ろう。「主よ、わたしの信仰を増してください。あなたのみ言葉を理解させてください。なぜなら、あなたのみ言葉が開けると光を与えるからです。あなたのご臨在によってわたしを活気づけてください。わたしの心をあなたの御霊で満たしてください」と叫びなさい。(ビュー・アズ・ワルド 1902 年 6 月 10 日)

どんな時にも、どんな場所でも、どんな悲しみにも、どんな苦しみにも、前途が暗く将来が困難に見えて無力と孤独を感じるときにも、信仰の祈りに答えて、助け主が送られる。(各時代の希望下巻 154)

聖霊の力

「見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力が授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい。」(ルカ 24:49)

キリストの目に見える姿は弟子たちから消え去ろうとしていたが、新しい力が彼らにさすけられるはずであった。聖霊が十分に彼らにさすけられて、彼らの任務が保証されなければならなかった。(患難から栄光へ上巻 25)

弟子たちはキリストのご命令に従って、エルサレムで天父のお約束の聖霊の降下を待った。彼らは何もせずぼんやりと待っていたのではない。記録によると、「絶えず宮にいて、神をほめたたえていた」としるされている(ルカ 24:53)。彼らはまた、イエスの名によってみ父に願いを申し出ようと集まっていた。……「キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである」という、ゆるぎない論証をもち、彼らは信仰の手をますます高く差しのべた(ローマ 8:34)。……

弟子たちは人々と接するのにふさわしくなるように、また、日常の交わりの中で罪人をキリストに導くような言葉を語るのにふさわしくなるように、とりわけ熱心に祈った。意見の不一致や優位を望む心をすべて捨て、クリスチャンの交わりの中で互いに親密になった。彼らは神に近づいた。……

こうした準備の日々は、深く心をさぐる日々であった。弟子たちは霊的な不足を感じ、救霊の働きをするのにふさわしい者となることができるように、聖油が注がれることを祈り求めた。彼らは自分たちのために祝福を求めたのではない。彼らは魂の救いという重荷を負っていた。弟子たちは、福音が世に宣傳伝えられなければならないことを悟って、キリストが約束された力を求めたのである。

父祖の時代には聖霊の感化はしばしば著しく現されたが、決して満ちあふれるほどではなかった。今、救い主のみ言葉に従って、弟子たちはこの賜物を懇願し、天においてはキリストがそのとりなしをしておられた。主はその民にみ霊を注ぐことができるように、み霊の賜物をお求めになったのである。(同上 29～31)

ペンテコステ

「五旬節の日がきて、みんなの者が一緒に集まっていると、突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっばいに響きわたった。」(使徒行伝 2:1, 2)

み霊は、祈りながら待っていた弟子たちに臨み、ひとりびとりの心を十分に満たされた。無限なる神が、力をもって教会にご自身を現されたのである。この力の現れはもう何年ものあいだ、差しとどめられていたかのようであったが、今こそ、天は、み霊の恵みの富を教会に注ぐことができることをよろこんだ。そして、み霊の感化のもとに、悔い改めや告白のことばが、罪をゆるされたさんびの歌と交替した。感謝の聲があがり、預言のことばがきこえた。全天は崇敬の思いでこの比類のない、無限の愛に輝く知恵を見守り、あがめた。使徒たちはわれを忘れて「ここに愛がある」と叫んだ。彼らは与えられた賜物をしっかりと握りしめた。それから何が起こったであろうか。み霊の剣は、新たに力でとぎすまされ、天来の電光に輝いて、不信仰な者へと突き進み、一日に幾千もの人々が改心した。……

キリストの昇天は、主に従う者たちが約束の祝福を受けることのしるしであった。彼らは、仕事にとりかかる前にこれを持たなければならなかった。キリストは天の門の中に入って行かれて、天使たちのさんびのうちに王座につかれた。この儀式が終わるとすぐ、聖霊は豊かな流れとなって弟子たちの上にくだり、キリストは永遠の昔から父と共に持つておられた栄光をお受けになった。ペンテコステの聖霊降下は、あがない主の就任式が完了したことを知らせる天からの通報であった。主は、その約束に従って、ご自分が祭司、また王として、天と地のすべての権威を引き継ぎ、神の民の上に立つ油そそがれた者となられたしるしとして、弟子たちに天から聖霊を送られたのであった。(患難から栄光へ上巻 32～34)

わたしたちが同じように熱心に求めるなら、神は同じ祝福をわたしたちに与えようとしておられる。主は地上の弟子たちにご自分の御霊を注がれた後、天の宝庫に鍵をおかけになったのではない。わたしたちもこのお方の祝福を十分に受けることができる。天はこのお方の恵みの宝で満たされているので、信仰をもって神にComing者はこのお方が約束されたことをすべて主張することができる。(パイブル・コメンタリ [E.G. ホットコット] 6 巻 1055)

御霊の務め

「彼がきたら、罪と義とさばきについて、世の人の目を開くであろう。」(ヨハネ 16:8 英語訳)

みたまは人を生れかわらせる働きをするものとして与えられるのであって、これがなければ、キリストの犠牲は何の役にもたたなかったであろう。悪の力は幾世紀にわたって強められ、人々がこのサタンのとりことして屈服していることは驚くばかりであった。罪に抵抗してこれに打ち勝つ唯一の道は、制限された力ではなく天来の満ち足りた力をもってこられる第三位の神、聖霊の偉大な働きを通してである。世のあがないの主によって達成されたことに効果を与えるのはみたまである。心が清くされるのはみたまによってである。みたまによって、信者は神の性質にあずかる者となる。すべての先天的後天的な悪の傾向に打ち勝つ天来の力として、またご自身の品性を教会に印象づける天来の力として、キリストはみたまをお与えになった。(各時代の希望下巻 156, 157)

わたしたちが、自分を聖霊の働かれる器として服従するときに、神の恵みがわたしたちのうちに働いて、古い傾向を退け、強い性癖に勝利し、新しい習慣を形造るのである。(キリストの実物教訓 330)

魂に受け入れられた神の御霊はすべての機能を目覚めさせる。神に全面的に捧げられている思いは、聖霊の導きの下に調和して発達し、神のご要求を悟り、成就するために強められる。弱くためらいがちな品性は力強く堅固な品性に変えられる。……

暗くなっている思いの中に義の太陽の明るい光線が輝くようにするのは、御霊である。それは永遠の真理についての悟りを呼び覚まし、人々の心のうちを燃やす。義の大いなる標準と罪の確信を思いの前に置き、唯一罪から救うことのおできになるお方を信じる信仰を鼓舞し、現世のほろびゆくものから人の愛情を退かせ、永遠の嗣業に固定することによって品性を改変する働きをするのは御霊である。御霊は人間を王家の一員、天の王の子らとなるのにふさわしくするため、彼らを再創造し、精練し、聖化する。(福音宣伝者 285 ～ 287)

キリストのような助け主

「しかし、わたしはほんとうのことをあなたに言うが、わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けば、彼をあなたがたにつかわそう。」(ヨハネ 16:7 英語訳)

神のために献身した働き人がどんな場所にしようと、み霊は共に住んでくださる。弟子たちに語られたことは、同時にわれわれにも語られている。助け主は彼らのものであるばかりでなく、われわれのものでもある。(患難から栄光へ上巻 47)

キリストが昇天後につかわすと約束された助け主は、神格に満ちみちた御霊であり、キリストを個人的な救い主として受け入れ、信じるすべての者に神の恵みの力をあらわす。(伝道 615)

キリストのように非常に優しく真実な助け主はいない。このお方はわたしたちの弱さを思いやるお方である。その御霊は心に語りかけて下さる。状況が友からわたしたちを引き離し、広大な絶えず動いている大洋はわたしたちと彼らの間にうねるかもしれない。彼らの誠実な友情はなお存在していても、彼らはそれを表すことができないかもしれない。……しかし状況も距離も天来の助け主からわたしたちを引き離すことはできない。わたしたちがどこにいても、どこへ行くことができても、このお方はそこにおられ、キリストに代わって、このお方の代理として働くためにおられる。このお方は常にわたしたちのかたわらに、落ち着かせる優しい言葉を語るために、支え、援助し、励まし、元気づけるためにいて下さる。聖霊の感化力は魂のうちにあるキリストの命である。この御霊はキリストを受け入れる一人びとりのうちに、また一人びとりを通して働かれる。この御霊の内住を知っている者は、その実一愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、信仰一をあらわす。(彼を知るために 171)

聖霊は絶えずクリスチャン品性の完全を求めている者と共に住まわれる。どのような緊急時にも、どのような誘惑の下でも、努力し、格闘し、信じている魂を支えるために、聖霊は純潔な動機、生きて活動する原則をお与えになる。聖霊は世の憎しみ、親族の不親切、失望、不完全さの自覚、また生涯の過ちのただ中で、信者を支えてくださる。キリストの測り知れない純潔と完全に頼ることによって、わたしたちの信仰の創始者であり完成者であるお方を見つめる者に勝利は確実である。……このお方はご自分を通してわたしたちが道徳上の卓越さを得、クリスチャン品性の完全に到達することができるために、わたしたちの罪を負ってくださった。(ビュー・アンド・ヘアルド 1897年 11月 30日)

キリストの代表者

「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ 28:20)

キリストは、父なる神のみもとに昇天されたとき、弟子たちを助けなしに放っておかれなかった。キリストは優勢な敵に対して信仰のよき戦いをたたかっている者を助けるために、聖霊をご自分の代表としてまた天使たちを仕える霊としておつかわしになった。イエスはあなたがたを助けてくださるお方であることを、常に覚えていよう。イエスほどあなたがたの品性の特徴を理解してくださるお方は他におられない。キリストはあなたがたを見守っておられる。キリストのみちびきを心から願うとき、キリストはあなたがたのまわりに善への感化力を与えて、あなたがたに対する神のみこころをなしとげてくださる。(青年への使命 3)

クリスチャンの生涯は戦いである。しかし、「わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである」とある(エペソ 6:12)。義と不義とのこの戦いにおいて、わたしたちはただ神の助けによってのみ勝利することができる。わたしたちの有限な意志を無限な神のみこころに服従させなければならない。人間の意志は神の意志に入れ混ぜなければならない。これはわたしたちの助けとして聖霊をもたらす。……

聖霊はキリストの代表者で、キリストは聖霊を通して働かれる。キリストは聖霊を通して人の魂に霊的生命を吹きこみ、善のために霊的能力を活発にし、道徳的な汚れをきよめ、神の国にふさわしいものとなさる。イエスは豊かな祝福をあたえ、とうとい賜物を人々にお授けになる。

イエスは無限の知恵と能力をもった偉大な助言者である。キリストの聖霊の能力をみとめ、聖霊によってかたちづけられるがままにされるとき、わたしたちはキリストにあつて完全な者として立ち得る。なんというすばらしいことであろうか。「キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、そしてあなたがたは、キリストのうちにあつて、完全なのである」(コロサイ 2:9)。神の霊によってかたちづけられるがままに心を服従させるときに、はじめて幸福がある。聖霊は新たにされた魂を、型なるイエス・キリストに一致させられる。聖霊の感化によって、神に対する敵意は信仰と愛に変わり、高慢はけんそんになる。魂は真理の美しさをみとめ、美しい完全な品性の中にキリストがあがめられる。こうした変化がなしとげられるとき、天使たちは歓喜の歌を高らかにひびかせ、神とキリストは、神のみ像にかたどられた魂をお喜びになる。(同上 43, 44)

露、雨、日光のように

「わたしはイスラエルに対しては露のようになる。彼はゆりのように花咲き、ポプラのように根を張り、」(ホセヤ 14:5)

成長の過程の変化の中には、ほとんど数えつくすことのできないほど多くの教訓が含まれているが、その中の最もとうとい幾つかの教訓が、種の生長についての救い主のたとえ話の中に含まれている。……

種そのものの中には、発芽の力、すなわち神ご自身が植えつけられた法則がそなわっている。しかし、もしそのままに放っておけば種は、芽を出す力を持たない。穀物の生長を促す上に人のしなければならないところがあるが、しかしある限界を越えては人間は何一つすることはできない。そこは、ご自身の全能の力をもって、種まきと収穫にくすしいつながりを持たれる神にたよらなければならない。

種の中には生命があり、土の中には能力がある。しかし、そこに無限の能力が夜も昼も働くのでなければ、種は収穫物を生ずることができない。かわいた畑が雨によって生氣づけられ、太陽によって熱をあたえられ、また地中の種に電気が通じなくてはならない。創造主によって植えつけられた生命は創造主によってのみ呼び起こされる。種が生長し、植物が発育するのは、すべて神の力によるのである。……

種の発芽は、霊的な生命の始まりをあらわし、植物の生長は、品性の向上にたとえられる。生命のあるところには 必ず生長がある。

植物は、生長するか、それとも死ぬかのどちらかである。植物の生長と同様に、品性の成長も無言のうちに人目につかず、しかも絶えまなくつづけられる。われわれの生命は、成長の一段階ごとに完全であることができる。しかしわれわれに対する神の御目的が成就されてもおそこには絶えまない成長がある。

植物は、神が、その生命をささえるために備えられたものを受けることによって生長する。そのように霊的な成長は、神の力と協力することによって達せられる。植物が土に根をおろすように、われわれは、キリストに根をおろさなければならない。植物が、日光や露や雨をうけるように、われわれは、聖霊をうけなければならない。われわれがいつも心にキリストを思いつづけているならば、聖霊は「雨のように先の雨と後の雨の地にのぞむように」(ホセヤ 6:3) われわれに臨まれるのである。キリストは、義の太陽として、「翼には、いやす力を備え」(マラキ 4:2) てわれらの上に上られるのである。われわれは、「ゆりのように花咲き」「園のように栄え、ぶどうの木のように花咲き」(ホセヤ 14:5, 7) とある。(教育 110 ～ 112)

聖書を明らかにする

「そして、それを神は、御霊によってわたしたちに啓示して下さったのである。御霊はすべてのものをきわめ、神の深みまでもきわめるのだからである。」(コリント第一 2:10)

神は、ご自分の真理を、人間を通して世にお伝えになった。そしてご自分の聖霊によって、人々に、この働きをなす資格と能力をお与えになった。神は人を導いて、語るべきことと書くべきことをえらばせられた。宝は土の器である人間に託されたが、しかしその宝が天来のものであることにはかわりがない。あかしは、人間のことばという不完全な表現を通して伝えられたが、しかしそれは神のあかしである。神を信ずる従順な子らは、その中に、恵みと誠とに満ちた、神の力の栄光を見るのである。

神は、みことばを通して、救いに必要な知識を人間にお与えになった。われわれは、聖書を、神のみこころについての権威ある、まちがいのない啓示として受けとらねばならない。聖書は品性の規準であり、教理を示すものであり、経験を吟味するものである。……しかし、神がみことばを通してみこころを人間に啓示されたからといって、聖霊のたえざる臨在とみちびきが不要になったわけではない。それどころか、聖霊は、みことばを神のしもべたちを開き、その教えを解明して実行に移させるために、救い主によって約束されたのである。(各時代の
大争闘序文 3, 4)

表面の下を掘る者は真理の隠れた宝石を発見する。聖霊は熱心な探索者と共におられる。聖霊はみ言葉を明るく照らし、新しく新鮮な重要性を伴って真理を思いに印象づける。探索者はかつて感じたことがないほど平安と喜びの感覚に満たされる。以前にはなかったほど真理の尊さに気づく。新しい天来の光が、み言葉を照らし、あたかも一つ一つの文字が金で染められたかのように輝かせる。神ご自身が御言を霊と命にして下さり、思いと心に語ってこられた。(エレキッド・メッセージ 2 巻 39)

聖霊は真理を探究する多くの気高い人々の心にキリストの美德を植えつけ、彼らの性質や以前の教育とは正反対の同情心を起こさせるのである。「すべての人を照すまことの光があつて、世にきた」(ヨハネ 1:9)。この光が彼らの心を照らしている。この光に心を留めるならば、それは彼らの足を神の国に導くのである。(国と指導者上巻 345)

真理の教師

「真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう」
(ヨハネ 16:13)

助け主は「真理の御霊」と呼ばれている。助け主の働きは真理を明らかにし、これを守ることである。助け主はまず真理のみたまとして心に住み、こうして助け主となられる。真理には慰めと平安があるが、虚偽には真の平安も慰めもない。サタンが人の心を支配する力を手に入れるのは偽りの説や言い伝えを通してである。サタンは人々を偽りの標準へ向けることによって、まちがった品性を形成する。聖霊は、聖書を通して心に語り、真理を心に印象づける。こうしてみたまは誤りをばくろし、それを魂から追い出される。キリストが選民をご自身に心服させられるのは、真理のみたまが神のみことばを通して働くことによってである。(各時代の希望下巻 156)

神は、この世でさえ、そのみ言葉の真理をいつもその民にあらわしたいと望んでおられるが、この知識をうる道はただ一つしかない。み言葉は聖霊によって与えられたのであるから、その聖霊の光に照されてはじめて、み言葉を理解することができる。「神の思いも、神のみたま以外には知るものはない」「みたまはすべてのものをきわめ、神の深みまでも きわめるのだからである」(コリント第一 2:11,10)。(キリストへの道 152)

知恵の泉であられる神から、人にとって価値のあるあらゆる知識、すなわち知性が把握し、とどめることのできるすべてのものが出てくる。善悪を代表している木の実は、かつて栄光に輝く天使であった者によって勧められているからといって、熱心にもぎ取るべきではない。もし人がそこから食べるなら善と悪を知るようになるであろうと、彼は言った。しかしそのままにしておきなさい。真の知識は不信心者や悪人から来ることはない。神のみ言葉は光と真理である。真の光はイエス・キリストから、すなわち「すべての人を照すまことの光があつて、世にきた」お方から輝く(ヨハネ 1:9)。神の知識は聖霊から出る。人類はこの世において平和、幸福を促進し、神の王国における永遠の休息を確保する必要がある。(両親、教師、生徒への勧告 360, 361)

聖書は、決して祈りをささげずに研究してはならない。ページを開くときは、聖霊の導きを祈らねばならない。この導きは必ず与えられる。……真理の御霊のみが、神の真理をほんとうに教えることのできる力ある教師である。(キリストへの道 124, 125)

忠実な導き手

「これこそ神であり、世々かぎりなくわれらの神であって、とこしえにわれらを導かれるであろう。」(詩篇 48:14)

救いの働きを前進させるための大運動において、神は聖霊によって、とくにご自分のしもべたちを指導されるということほど、聖書の中で明白に教えられている真理はほかにない。人間は、神の恵みとあわれみのご目的を遂行するために用いられる神のみ手の中の器である。(各時代の斗争闘下巻 35)

イスラエルの神はなおもご自分の民を導いておられること、そして最後まで彼らと共にいて下さることを悟るとき、わたしは励まされ、祝福を受ける。……

わたしたちが聖霊の特別な導きを必要としている時があるとすれば、それは今である。わたしたちは徹底的な献身が必要である。自分自身の生活と、伝道の中で、世に神の力を明示すべき時は満ちている。

主は、第三天使のメッセージを宣布する働きがますます力を増し加えて前進するのを見ようと願っておられる。このお方がどの時代にもご自分の民に勝利を与えるために働いてこられたように、今の時代もご自分の教会のためのご目的に勝利に満ちた成就をもたらしたいと切望しておられる。このお方はご自分の信じる聖徒たちに、ご自分のみ事業の真理と義において、力からより大きな力へ、信仰から増し加わった保証と確信へと進みつつ、一致して前進するようお命じになる。

神が一つ一つの新しい経験に対処するための力をわたしたちに与えるために共にいて下さることを覚えて、わたしたちは神の御言の原則に岩のように堅く立つべきである。……わたしたちは、ごく初期の経験から現在に至るまで、神の御霊の指示と是認によって実証してきた信仰を非常に聖なるものとして抱えているべきである。わたしたちは、主がこれまでご自分の戒めを守る民を通して進めてこられ、また時が進むにつれ、その恵みの力を通してもっと強くもっと効果のあるものに発展していく働きを非常に尊いものとして大切にすべきである。敵は神の民の識別力を曇らせ、彼らの有用性を弱めようとしているが、もし彼らが神の御霊の導きどおりに従うなら、御霊は彼らの前に機会の扉を開かれる。……彼らの経験は、主がご自分の忠実な者に最終的な勝利の印を押すために、力と大いなる栄光と共に天から降りてこられるまで、絶えず成長するものとなる。(セクレット・メッセージ 2 巻 406, 407)

わたしたちの個人的な導き手

「また、あなたが右に行き、あるいは左に行く時、そのうしろで「これは道だ、これに歩め」と言う言葉を耳に聞く。」(イザヤ 30:21)

十字架を取り上げてイエスに従うよう、彼らを導く純潔な宗教の精神を吹き込まれたわたしたちの青年を見ることほど、わたしが望んでいることはない。原則に支配され、純潔と義の衣に覆われたキリストの若い弟子たちよ、前進しなさい。あなたがたの救い主はあなたがたをそのタラントに最も適した立場に、あなたがたが最も役立つ場所に導かれる。(教会への証 5 巻 87)

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう」(ヤコブ 1:5)。このような約束は金や銀よりもはるかに価値がある。どのような困難や困惑の中でも、もしあなたが謙遜な心で神の導きを求めるなら、このお方のみ言葉は恵み深い答えがあなたに与えられることを誓っている。そしてそのみ言葉は決して期待にそむくことはない。(同上 427)

わたしたちが時の終わりに近づくにつれ、偽りがあまりにも真理に混ぜ合わされるために、聖霊の導きを得ている者だけが、誤謬から真理を識別することができる。わたしたちは主の道を守るためにあらゆる努力をする必要がある。わたしたちは決してこのお方の導きから離れて人を信頼してはならない。主のみ使いたちは主を信じる信仰を持っている者を厳密に見守りつづけるよう命じられているので、この天使たちは必要なときはいつでもわたしたちの特別な助け手となる。わたしたちは日々信仰の完全な確信をもって主の許に來、知恵を求めてこのお方を見上げるべきである。……主の御言によって導かれている者は、確実に偽りと真理、罪と義を見分ける。(SDA バイブル・コメント [E.G. ホルバート・コメント] 7 巻 907)

「インマヌエル、神われらと共にいます」。これはわたしたちにとってすべてを意味している。それはわたしたちの信仰のためになんと広大な基礎を敷いていることであろうか!それは信じる魂の前に、なんと大きな不死を伴う希望を置いていることであろうか!イエス・キリストのうちにあってわたしたちと共におられる神は天への道のりの一步一步をわたしたちと同行してくださるのである!慰め主としてわたしたちと共におられる聖霊はわたしたちの悲しみを和らげ、誘惑の中でわたしたちを守るため、わたしたちの困惑の中での導き手であられる!(神のむすこ娘たち 295)

神のみこころをなす者、神が示された道を歩む者にとって、つまずいて倒れるということはあり得ない。神のみちびきのみたまの光は、彼の義務について明らかなさとりを与え、その働きの終りまで彼を正しくみちびく。(各時代の希望中巻 340)

静かな細い声

「きょう、あなたがたがみ声を聞いたなら、……あなたがたの心を、かたくなに
してはいけない。」(ヘブル 3:7,8)

良心は人間の情欲の葛藤のただ中で聞こえる神のみ声である。それが抵抗を受けると神の御霊は悲しまれる。(教会への証 5 巻 120)

人は神の御霊を消す力を持っている。選択する力は彼らに任されている。彼らには行動の自由が許されている。わたしたちの贖い主のみ名と恵みによって従順であることもできれば、もしくは不従順であって、その結果を実感することもできる。(福音宣伝者 74)

他の道を追い求めるようにとわたしたちを駆り立てる、わたしたちの周りを取り囲んでいる他の声があるとき、主はわたしたちに義務の声に従うようにと要求なさる。神から語られる声を識別するためには、わたしたちの側の熱心な注意が要求される。わたしたちは、傾向に抵抗し、勝利して、交渉や妥協なしに良心の声に従わなければならない。さもなければ、その促す声は止み、意志と衝動が支配する。主のみ言葉は、聞き従うまいと決心することによってこのお方の御霊に抵抗することのなかったわたしたちすべての者にもたらされる。この声は警告、勧告、譴責のうちに聞こえる。それは主の民へのこのお方の光のメッセージである。もしわたしたちがもっと大きな呼び声、あるいはもっと良い機会を待つなら、光は引き上げられ、わたしたちは暗闇の中に取り残される。……

快楽や性癖が反対方向へ導くからといって、今日聖霊の嘆願を無視するなら、明日は説得するどころか印象づける力さえないかもしれない。迅速かつ自発的な心をもって、現在の機会を生かすことが、恵みと真理の知識に成長する唯一の方法である。わたしたちは個人的に、自分たちが万軍の主の御前に立っているという感覚を絶えずいだいているべきである。とこしえのお方の御目に侮辱となる一つの言葉、行動、思想さえもふけるべきではない。……もしわたしたちが自分はどこにいても至高者の僕であると感じたいのであれば、もっと慎重になる。わたしたちの全生涯は、わたしたちにとって、地上の名誉が決して与えることのできない意味と神聖さを持つようになる。

心の思想、唇の言葉、生活のどの行動も、もし神のご臨在が絶えず感じられるなら、わたしたちの品性をもっと価値のあるものとする。心の言葉が「見よ、神がここにおられる」となるようにしよう。そうすれば生活は純潔になり、品性はしみがなく、魂は絶えず主のところへ上げられる。(教会への証 5 巻 69, 70)

精練し聖化する力

「わたしは彼らを聖別する主である。」(レビ記 22:9)

人を創造なさったお方以外だれも人の心に変化をもたらすことはできない。……最も経験ある者がもつ人間の判断や考えは、不完全で欠点をまぬかれない。そして、自分自身の遺伝的な品性の特質に支配されているもろい器は、自己がたづなを握り、運転することのないように、日々聖霊の聖化に服する必要がある。(教会への証 6 巻 167)

世的な科学だけで訓練を受けた思いは、神の事柄を理解するのに失敗するが、その同じ思いが改心し、聖化されると、み言葉の中に神聖な力を見るようになる。御霊の聖化によって清められた思いと心だけが天の事柄を理解することができる。(教会への証 8 巻 301)

地上の親は自分の子供に聖化された品性を与えることはできない。彼は自分の品性を子供に譲ることはできない。神だけがわたしたちを変えることができることになる。キリストは弟子たちに息を吹きかけて仰せになった、「聖霊を受けよ」(ヨハネ 20:22)。これは大いなる天の賜物である。キリストは御霊を通してご自身の聖化を彼らにお与えになった。このお方は彼らにご自分の力を吹き込まれたが、それは彼らが魂を福音へ勝ち取ることができるためであった。今後キリストは彼らの能力を通して生き、彼らの言葉を通してお語りになるのであった。……彼らはこのお方の原則を大切にし、その御霊によって支配されなければならない。彼らはこれ以上自分自身の方法に従わず、自分自身の言葉を語るべきではなかった。彼らが語った言葉は聖化された心に由来し、聖化された唇から出た。(神のむすこ娘たち 294)

わたしたちは、自分の品性を形づくり、あらゆる思想をキリストの虜とするために、聖霊の和らがせ、抑制し、精練する感化力を必要としている。マリヤがしたように、わたしたちに打ち勝たせ、キリストの足元に座り、このお方の心の柔和とへりくだりを学ぶよう導くのは聖霊である。わたしたちは、敵によって罫をかけられ、自分たちの魂が危険にさらされないように、毎時間、聖霊によって聖化される必要がある。(牧師への証 127)

真理の光が地の果てまで輝くべきである。大いなる、もっと大いなる光が、暗黒の世界の暗闇を通して放散するようにと、贖い主のみ顔からその代理者の上に神聖な輝きで光り輝いている。わたしたちはこのお方との共労者として、わたしたちがますます輝くことができるように、その御霊の聖化を求めて祈ろう。(教会への証 8 巻 40)

神に似たすがたにかたどられる

「そして、神がわたしたちのうちにいますことは、神がわたしたちに賜わった御霊によって知るのである。」(ヨハネ第一 3:24)

聖霊の約束は一時代や一民族に限られたものではない。キリストは、み霊の聖なる感化は世の終わりにいたるまで、キリストに従う者の上にあると宣言なさった。ペンテコステの日から現代にいたるまで主とそのみわざに自分のすべてをささげてきた人々に、助け主が送られてきた。キリストを個人的な救い主として受け入れたすべての者に、聖霊は助言者、聖別する者、導き手、証人としてのぞんだ。信ずる者たちは、神に密接につながって生活すればするほど、あがないの主の愛と救いの恵みについて一層ははっきりと力強くあかした。幾世紀にもわたる長い迫害と試練の時代に生きて、生涯、聖霊が豊かにとどまった人々は、この世におけるしるしとなり、不思議となった。彼らは天使や人々の前で、人の心を変えるあがないの愛の力をあらわしてきた。

ペンテコステに天から力をさづけられた人々でも、それ以後、もはや誘惑や試みを受けなかったわけではない。彼らは真理や義のためにあかしをしているとき、すべての真理の敵にくり返しおそわれた。敵は彼らのクリスチャン経験を墮落させようとしたのである。彼らは神から与えられた力の限りをつくして、キリスト・イエスにある男女の水準に到達しなければならなかった。また、完全を目指してより高い高みへ達するために、日ごとに新たな恵みを求めて祈った。どんなに弱者でさえも、聖霊の働きにより、神を信じる信仰を表すことによってきよめられ、洗練され、高尚にされるように、各自に与えられた力を磨くことを学んだ。彼らは謙遜に、聖霊のつくり変える感化力に自分をゆだねたとき、神の徳を豊かに受けて、神に似たものにつくりかえられた。……

聖霊は、……この世のものに対する愛着を取り除き、魂を聖なる事物への願望で満たす。……もし人々が作りかえられることを望むならば、全人格のきよめがなし遂げられるであろう。御霊は神に関する事柄を取り、それを魂に刻みつける。(患難から栄光へ上巻 45～50)

慰め(活気づけ)をもたらす

「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて」(使徒行伝 3:19, 20)

第三天使のメッセージは大いなる叫びへと盛りあがりつつある。そして、あなたは勝手に現在の義務をなおざりにしながら、いつか将来、自分の側では何の努力をしなくても、すばらしいリバイバルが起こるときには、大いなる祝福を受けるはずだという考えを心に抱いてはならない。今日あなたがたは、神があなたがたを尊い器とし、このお方の奉仕にふさわしい者になるように、自分自身を捧げるべきである。今日あなたは自己を空にし、嫉妬、ねたみ、邪推、争い、すべて神を辱めることを空にさせていただくために、神に自らを捧げるべきである。今日あなたは天来の露のために備え、後の雨の注ぎのために備えることができるよう、自分の器を清めていただかなければならない。なぜなら、後の雨がもたらされるからであり、そのとき神の祝福はすべての汚れから清められている一人ひとりの魂を満たすからである。わたしたちが主のみ前から来る慰めの時にふさわしくなることができるように、すなわち聖霊のパプテスマにふさわしくなることができるために、今日自分の魂をキリストに明け渡すのはわたしたちの仕事である。……

神は、このメッセージが閉じる時、あるいは猶予期間が終わる時をわたしたちに明らかにしてはおられない。……わたしたちの義務は、まさに滅びようとしている人々の魂のために、見張り、働き、待ち、一瞬一瞬労することである。わたしたちは、神の多方面にわたる恵みのよき管理者として、このお方の方針の中で働き、その賜物を分配しながら、そのイエスのみ足の跡をたゆまず歩み続けるべきである。……

主の御言は、万物の終りが近いという事実を表しており、その証は、すべての魂にとって、心の中に真理が植えつけられ、それによって真理が生活を支配し、品性を聖化する必要があることを、この上なく明確にしている。主の御霊は、吹き込まれた御言の真理を取りあげ、キリストに従っていると公言する者が他の人々に与えることができる気高く聖なる喜びを持つために、それを魂に押印なさる。

わたしたちの唯一の安全は、天の活気づけの時のために準備していること、わたしたちのともし火の芯を切りそろえて、燃やしていることにある。……わたしたちは日ごとに神の御霊の啓発を求め、聖霊がわたしたちの魂と品性にその働きをなすことができるようにしなければならない。(レクテッド・メッセージ 1 巻 190, 192)

清め活気づける力

「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください。」(詩篇 51:10)

主は、わたしたちが部屋を換気するのとまったく同様に、心をきよめて下さる。わたしたちは戸や窓を閉めてなにか浄化する物質を入れるのではない。かえって、戸を開き、大きく窓を開いて、浄化する天の大气が流れ込むようにする。……衝動や感情という窓は天に向かって開き、利己心や世俗といううちは追い払わなければならない。神の恵みが思いの部屋をくまなく掃除しなければならず、想像力は天の事柄を熟慮し、性質のどの要素も神の御霊によって純潔にされ、活気づけられなければならない。(神のむすこ娘たち 107)

聖書の宗教の原則を生きる者は、道徳力において弱さを見出されることはない。聖霊の気高くする感化力の下で、好みと傾向は純潔で気高くなる。キリストの宗教ほど強く愛情をとらえるものはなく、これほど行動の最も深い動機にまで奥深く届くもの、これほど力強く生涯に影響を及ぼし、品性に大いなる堅固さと安定性を与えるものはない。キリストの宗教はそれを持つ者をつねに向上へ導き、高尚な目的をいだかせ、適切なふるまいを教え、すべての行動にふさわしい気高さを与える。(福音宣伝者 127)

教会は神の最もやさしい愛と保護の対象である。もし教会員が神にしていだくならば、このお方は彼らを通してご自分のご品性を表して下さる。このお方は彼らに、「あなたがたは、世の光である」と仰せになる(マタイ 5:14)。神と共に歩み語る者は、キリストの優しさを実践する。彼らの生涯において、寛容、柔和、自己抑制が、聖なる熱心さと勤勉さに結びついている。彼らが天に向かって前進するにつれ、鋭く、荒い品性の角は徐々に消えていき、信心が見られる。聖霊は恵みと力に満ちて思いと心に働いて下さる。(天国で 283)

イエスが内住して下さる心は、聖霊によって生き返らされ、精錬され、導かれ、支配される。そして人間の代理人は、自分の品性が神と調和するために奮闘する。彼は神の表されたご意志やみ思いに反するすべてのものを避ける。(神のむすこ娘たち 98)

ありのままの信仰によって受け入れられた

「義人はその信仰によって生きる。」(ハバクク 2:4)

多くの人々は、彼らの特権であり義務である信仰を働かせることをせず、信仰だけがもたらし得る感情を待っていることがよくある。感情は信仰ではない。この二つのものは全く別のものである。信仰は、わたしたちが働かせるものであるが、喜ばしい感情と祝福は、神がお与えになるものである。神の恵みは、生きた信仰という通路を経て、魂に達する。そして、われわれは、その信仰を働かせることができるのである。

真の信仰は、約束された祝福が、実現しそれを感じることができる前に、それをつかんで 自分のものとする。わたしたちは信仰をもって、第二の幕の中に、わたしたちの願いをささげ、信仰によって、約束された祝福をつかみ、それを自分たちのものとして主張しなければならない。それから、わたしたちは、祝福を受けることを信じなければならない。なぜならば、信仰が祝福をつかんでいるのであって、み言葉にあるとおりに、それはわたしたちのものだからである。「なんでも祈り求めることは、すでにかねえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう」(マルコ 11:24)。ここに、わたしたちが祝福を受けたとを感じる前に、受けることを信じる信仰、すなわち、真の信仰がある。……しかし、多くの人々は、……信仰と信仰によって与えられる祝福とを混同している。わたしたちが聖霊に欠けていることを感じる時こそ、信仰を働かせるべき時である。厚い黒雲が心を閉ざすように思われるそのときに、生きた信仰によって、暗黒をつらぬき、雲を散らさなければならない。真の信仰は、神のみ言葉の中に含まれた約束に基づいていて、そのみ言葉に従う者だけが、その輝かしい約束を自分のものにすることができる。(初代文集 150, 151)

神がその子らの訴えにお答えにならないなどと考えて、神をはずかしめてよいものであろうか。……神ご自身の代理者である聖霊は、すべての賜物のうち最大のものである。すべての「良い物」はこの中に含まれている。創造者ご自身、これ以上大きなもの、これ以上良いものをお与えになることはできない。わたしたちが悩みのうちにあって、主に、わたしたちをあわれみ、聖霊によってお導きくださるように求める時、主は決してわたしたちの祈りを退けることはされない。(祝福の山 164, 165)

わたしたちが受ける聖霊のはかりは、わたしたちの願いとそのために働かせる信仰のはかりに比例している。……わたしたちは、もし個人個人が試金石となる神のみ言葉を試すなら、必ず聖霊を受けることを確信できる。(天国で 336)

信じるすべての者のために

「神があなたがたを初めから選んで、御霊によるきよめと、真理に対する信仰とによって、救を得させようとし」(テサロニケ第二 2:13)

この聖句の中に、救いの働きにおける二つのものが表されている。それは、神の感化力と、キリストに従う人々の強力な生きた信仰である。わたしたちが神との同労者になるのは、聖霊の聖化と真理の信仰を通してである。キリストはご自分の教会の協力を待っておられる。……イエス・キリストの血、聖霊、神聖なみ言葉は、わたしたちのものである。これらすべての天の備えの目的—キリストがそのために死なれた魂の救い—がわたしたちの前にある。そしてそれはわたしたちが神の与えて下さった約束をつかみ、このお方の同労者になることにかかっている。神性と人性の代理人がこの働きにおいて協力しなければならない。……

キリストはわたしたちの罪のために十字架にかかられた。キリストは死人の中からよみがえられた。キリストはわたしたちの仲保者として高き所へ上られた—これらはわたしたちが学び、教える必要のある救いの科学である。(両親、教師、生徒への勧告 22, 23)

神の民が聖化され、精錬され、聖なる民となり、周囲のすべての人々に光を伝えることが神のご目的である。真理が彼らの生活の中に具現化(ぐげんか)されることにより、彼らが地における讃美となることがこのお方のご目的である。キリストの恵みはこれを実現するのに十分である。(教会への証 8 巻 14)

自己を忘れて心の中に聖霊が働く余地を与え、神に全く献身した生涯を送る者の有用さには限りがない。身も魂も精神も神の働きにささげる者は、皆たえず肉体と知能と霊の力を新たに受ける。天の無尽蔵な資源が自由になるのである。キリストはご自身の霊の息、すなわちご自身の生命をお与えになる。そして聖霊は最高の力をもって頭と心に働く。そのとき、自分の誤った先入観、品性の欠陥、薄い信仰から不可能と思っていた勝利を恵みの力によって獲得できる。

何をも惜しまず、奉仕のために自らをささげる者にはだれでも測り知れぬ結果を生ずる力が与えられる。(ミスト・オブ・ヒーリング 132)

人間の力以上のものを

「敵が洪水のように押し寄せるとき、主の御霊は彼に向かって旗を掲げる。」(イザヤ 59:19 英語訳)

神は人間の資源では不十分なあらゆる危急時のために神聖な助けを備えてこられた。このお方はすべての困難のときに助け、わたしたちの希望と保証を強め、わたしたちの思いを啓発し、心をきよめて下さる聖霊を賜った。(教会への証 6 巻 415)

あなたの分は、自分の意志をキリストの側におくことである。あなたが自分の意志をこのお方の意志に明け渡すとき、このお方はただちにあなたを所有して下さり、神のよしとされる願いをあなたのうちに起こさせ、かつ実現に至らせて下さる。あなたの精神が聖霊の支配下におかれる。あなたの思想でさえもこのお方の支配下におかれる。あなたが自分の衝動や感情を思うように支配できなくても、あなたは意志を支配することができ、こうしてあなたの生活に完全な変化がもたらされる。あなたがキリストに自分の意志を明け渡すとき、あなたの命はキリストと共に神のうちに隠される。それはあらゆる支配や権威にまさる力に結びつく。あなたは神の力にしっかりと結びつける力を神から受ける。そして新しい生活、信仰の生活があなたにとって可能となる。

あなたは自分の意志をキリストの側におき、神の御霊と協力しない限り、決して自らを高めることに成功することはない。自分にはできないと思ってはならない。かえて「わたしはできる。そうする」と言いなさい。そうすれば、神はあなたの断固とした努力において、あなたを助けるためにご自分の聖霊を送ると約束なさった。(今日のわたしの生涯 318)

わたしたちに与えられた生涯の働きとは、永遠の命のために準備する働きである。もしわたしたちが神の望まれるとおりにこの働きを成し遂げるなら、わたしたちの前進のためにすべての誘惑が働くであろう。なぜなら、わたしたちがその魅惑に抵抗するとき、神聖な生活において向上するからである。戦いが白熱する中、格闘においてわたしたちを助けるように天から命じられた目に見えない代理人たちが、わたしたちのかたわらにいる。そして危機において、力と堅固さと精力がわたしたちに与えられ、わたしたちは人間の力以上のものを持つのである。……

勝利者になりたい者は、目に見えない代理人たちと戦いに携わらなければならない。……聖霊はつねに人の魂をきよめ、精錬し、訓練しようと働いておられる。それは、彼らが聖徒や天使たちの社会にふさわしい者となることができるためである。(両親、教師、生徒への勧告 237, 238)

調和をもたらす

「わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。」(ヨハネ 17:20, 21)

聖霊の降下の後、弟子たちはよみがえられた救い主を宣べ伝えるために出ていった。彼らの一つの願いは魂の救いであった。彼らは聖徒たちとの交わりうるわしさに喜んだ。彼らは優しく、思いやり深く、自己否定的で、真理のためには喜んでどのような犠牲でも払った。互いの日々の交わりにおいて、彼らはキリストが表すようにと命じられた愛を表した。……

さまざまな気質の人々の間に存在する調和と一致こそが、神が罪人を救うために世に御子をつかわされたことを伝えることのできる最も強力な証である。この証を担うことがわたしたちの特権である。しかし、そうするためには、自らをキリストの支配の下におかなければならない。わたしたちの品性は、このお方のご品性に調和してかたどられ、わたしたちの意志はこのお方の意志に明け渡されなければならない。(教会への証 8 巻 241～243)

わたしたちは同じ信仰の者、一つの家族の一員、みな同じ天父の子供であり、不死という同じ祝福された望みを持つ者である。わたしたちを共に結びつける絆は、なんと密接に優しくあるべきことであろう。世の人々はわたしたちの信仰がわたしたちの心に聖化する感化を働かせているかどうかを知ろうと見張っている。彼らはわたしたちの生活にある一つ一つの欠点や、わたしたちの行動における一つ一つの矛盾を見分けるのにすばやい。わたしたちの信仰を非難する機会を彼らに与えないようにしましょう。……

小さな相違をいつまでも考えていると、クリスチャンの交わりを破壊する行動へと導かれる。そのように敵がわたしたちに対して有利になることを許さないようにしましょう。ますます神へ、また互いへ近く引き寄せ続けられるようにしましょう。……救い主の心は、神のご目的の高さや深さにおいてことごとく成就しているご自分に従う者たちの上にとどまっている。彼らは世界中に散らされていたとしても、このお方のうちに一つである。……キリストの祈りが完全に信じられるとき、……わたしたちのメンバーの中に行動の一致が見られるようになる。兄弟は兄弟とキリストの愛の黄金の絆によって結ばれる。神の御霊だけが、この一つの状態をもたらすことができる。ご自身を聖別なさったお方は、ご自分の弟子たちを聖化することがおできになる。このお方と結合して、彼らは最も聖なる信仰のうちに、互に結びつくようになる。(同上 242, 243)

多様性の中に一致を創造

「わたしは、あなたがたに勧める。あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き、できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。」(エペソ 4:1～3)

パウロはエペソの人々に一致と愛を保つように熱心にすすめた。……教会における分裂は、世の前でキリストの宗教を辱め、真理の敵に自分たちの行動を正当化する機会を与える。(教会への証 5 巻 239)

信徒たちがキリストと一致するとき、必然的に互いの一致へと導かれる。その一致の絆は地上においてもっとも持続するものである。わたしたちはキリストが御父と一つであられたように、キリストのうちに一つである。……わたしたちが聖霊の実を結ぶことができるのは、ただキリストとの個人的な結合によって、日々このお方と交わることによってである。……わたしたちが恵みに成長すること、わたしたちの喜び、および有用さは、すべてわたしたちのキリストとの結合と、このお方を信じる信仰を働かせる度合いにかかっている。(同上 47, 48)

真理のみ言葉と御霊がわたしたちの心に宿ると、わたしたちを世から分離させる。真理と愛の不朽の原則が心と心を結ぶ。そして、一致の強さは、享受する恵みと真理の度合いに比例する。(同上 537)

ぶどうには多くの枝がある。しかし、すべての枝は違うにもかかわらず、彼らはけんかをしない。多様性の中に一致がある。すべての枝は自分たちの栄養を一つの源から得る。これがキリストに従う人々の間に存在すべき一致の例証である。彼らはさまざまな働き分野のいながら、彼らすべての者にひとりの頭しかいない。同じ御霊が、さまざまな方法で、彼らを通して働かれる。賜物は種々あるが、調和した行動がある。……神は各々が……自分に定められた働きを自分に与えられた能力に従ってなすように召しておられる。(SDA バイブル・コメント [E.G. 叔父・コメント] 6 巻 1090)

わたしたちには維持すべき品性があるが、それはキリストの品性である。キリストの品性を持って、わたしたちは共に神の働きを前進させることができる。わたしたちのうちにおられるキリストは、わたしたちの兄弟のうちにいるキリストと出会い、そして聖霊が心と行動の一致をもたらし、それが世にわたしたちが神の子であることを証するのである。……

世は目の前で神の民の心を、クリスチャンの愛のうちに共に結ぶ奇跡が働くのを見る必要がある。(教会への証 9 巻 187, 188)

条件つきで与えられている

「なぜなら、肉に従う者は肉のことを思い、霊に従う者は霊のことを思うからである。」(ローマ 8:5)

キリストは聖霊の賜物をご自分の教会に約束なさった。そして、その約束は最初の弟子たちのものであったのと同様に、わたしたちのものである。しかし、他のすべての約束のように、それは条件つきで与えられている。信じると公言し、主の約束をわがものと主張する人が多くいる。彼らはキリストと聖霊について語るが、何の益も受けない。なぜなら、彼らは自分たちの魂を神聖な代理人たちの導きと支配に明け渡さないからである。

わたしたちは聖霊を用いることはできない。聖霊がわたしたちをお用いになるのである。御霊を通して、神はご自分の民のうちに『神のよしとされるところ』『その願いを起させ、かつ実現に至らせる』のである(ピリピ 2:13)。しかし、多くの人々は導かれるために服従しようとししない。彼らは自分自身を管理したいのである。これが天来の賜物を受けない理由である。へりくだって神を待ち望み、このお方の導きと恵みを見守る人々にのみ、御霊は与えられる。約束された祝福は、信仰によって主張されると、次々と他のすべての祝福をもたらす。それはキリストの恵みの富に従って与えられ、このお方はすべての魂をその受ける容量に従って満たそうと待っておられる。

聖霊を与えることは、キリストの命を与えることである。このように神から教えられた人々だけ、すなわち内なる御霊の働きを持ち、その生活にキリストの生活が表される人々だけが、救い主の真の代表として立つことができる。……

キリストは、聖霊が罪に対する勝利のために苦闘する人々と共に宿るべきこと、そして人間の代理人に超自然的な力を与え、神の王国の奥義について無知な者を教えることによって、神聖な権能の力を示すと約束された。……

自己が完全に空にされるとき、すべての偽りの神が魂から追放されるとき、空いた所はキリストの御霊が流れ込むことによって満たされる。このような人には汚れから魂を清める信仰がある。彼は御霊に調和し、御霊の事柄に注意して聞く。彼は自己に信頼しない。キリストがすべてのすべてである。(福音宣伝者 284～287)

与えることと受けること

「ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。」(マタイ 10:8)

イエスは「わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであらう」と言われた(ヨハネ 4:14)。聖霊があなたに真理を開かれる時、あなたはもっとも 尊い経験をしっかりと胸にいだき、あなたに示された慰めの数々を他の人々に語りたいと切望する。その人々と交際するとき、あなたはキリストの品性や働きについて何か新しい思想を伝えるであろう。あなたは主イエスのあわれみ深い愛についてあらたに示され、それを主を愛する人にも愛さない人にも伝えるようになるであろう。……

一度キリストの愛を味わった心は、もっと深く飲むためにたえず呼び求める。そして与えるにしたがって、より豊かに、より潤沢に受けるのである。魂に対する神の啓示はすべて、知る能力と愛する能力を増し加える。魂は「もっとあなたを」と叫びつづける。すると、聖霊はいつも「さらに豊かに」(ローマ 5:9, 10 英訳)と答えて下さるのである。……失われた人類の救いのためにご自身をむなしくされたイエスには、聖霊が限りなく与えられた。同じように、主が内にお住まいになれるように全心をささげる時、キリストに従うすべての者に聖霊が与えられるのである。わたしたちの主ご自身が、「御霊に満たされ」なさいと命令されたが(エペソ 5:18)、この命令は成就する約束でもある。キリストの中に「すべての満ちみちた徳を宿らせ」(コロサイ 1:19)、「そしてあなたがたは、キリストにあつて、それに満たされ」ることは父なる神の喜ばれるところであった(コロサイ 2:10)。(祝福の山 24, 25)

神の御霊、またこのお方の恵みが、日々の経験に持ち込まれれば持ち込まれるほど、摩擦はなくなっていき、ますます幸福を得るようになり、ますます他の人々に与えるようになる。(天国で 307)

キリストは大中心、すなわちすべての力のみなもとである。……どんなに賢明な者でも、どんなに霊的な心を持った者でも、受けるときにのみ与えることができる。彼らは自分自身では魂の必要を何一つ満たすことができない。わたしたちは、キリストから受けるものだけを与えることができる。わたしたちはまた、他人に与えるときにのみ受けることができる。わたしたちは、たえず与えるときに、たえず受ける。そして多く与えれば与えるほどますます多く受ける。こうしてわたしたちは、たえず信じ、頼り、受け、与えることができるのである。(各時代の希望 中巻 112, 113)

わたしたちの明かりのための油

「思慮深い者たちは、自分たちのあかりと一緒に、入れものの中に油を用意していた。」(マタイ 25:4)

二種のおとめたちが待っていたことは、主を待望すると公言する人びとも二種あることを示している。彼らは純粋な信仰を表明するので、おとめと呼ばれている。あかりは、神のことばを代表している。……油は、聖霊の象徴である。……

たとえのなかで、十人のおとめは、みな、花婿を迎えに出た。だれもがあかりと油の器をもっていた。しばらくの間は、彼らの間になんの相違も見られなかった。キリスト再臨直前の教会もその通りである。すべての者が聖書の知識を持っている。すべての者がキリストの再臨の近づいたことを聞き、確信をもって彼の出現を待つのである。しかし、たとえにあったように、現在も同じである。待つ時間が長びいて信仰が試みられる。そして、「さあ、花婿だ、迎えに出なさい」と呼ぶ声がしたとき、準備のできていない者が多い。……彼らは聖霊に欠けているのである。神の聖霊がないならば、どんなにみことばの知識があっても役に立たない。聖霊を伴わない真理の理論は、魂を生かすことも、心を清めることもできない。聖書の戒めや約束をどんなによく知っていても、神の霊がその真理を心に深く刻みこませなければ、品性は変えられない。聖霊によって、目が開かれるのでないならば、人は真理と誤りとを見分けることができず、サタンの巧妙な誘惑におちいってしまう。……

神の恵みは、すべての魂に豊かに与えられた。……。品性は譲渡することができない。だれも他の人に代わって信じることはできない。……聖霊の働きの実である品性を人に分与することはできない。

「さあ、花婿だ」という叫びを聞いて目をさまし、それから油のきれたあかりに油を補って、主を迎える用意をすることはできない。……たとえの中で、思慮深い女たちは、あかりとともに、器の中に油を持っていた。あかりは、彼女たちが待っていた夜の間に、あかあかと燃え続けた。……そのように、キリストの弟子たちは、世界の暗黒に光を輝かさなければならない。神のことばは、聖霊の働きによってそれを受け入れる人の心を変える光になる。人びとの心に、みことばの原則を植えつけることによって、聖霊は、彼らの心の中に神の性質をめばえさせる。神の栄光の光、すなわち、神の品性が、神に従う者の中に輝きでなければならない。(キリストの実物教訓 385～390)

神にこのお方の恵みの油を多く与えて下さるよう求めなさい。(牧師への証 104)

神が許すことのできない罪

「だから、あなたがたに言うておく。人には、その犯すすべての罪も神を汚す言葉も、ゆるされる。しかし、聖霊を汚す言葉は、ゆるされることはない。」(マタイ 12:31)

罪がどんなものであろうと、もし魂が悔い改めて信ずるなら、その不義はキリストの血によって洗われる。だが聖霊の働きをこぼむ者は、悔い改めと信仰のどこかないところにわが身をおいているのである。神が心に働かれるのは、みたまによってである。人が故意にみたまをこぼみ、それをサタンから出たものであると断言するとき、彼らは神が彼らとまじわることのおできになる道を自らとぎすのである。みたまが最後までこぼまれるとき、神はもうそれ以上魂のためにつくすことがおできにならない。……

人々の目をめくらにし、心をかたくなにするのは神ではない。神は彼らのあやまちを正し、彼らを安全な道にみちびくために光をお送りになる。目がめくらになり、心がかたくなになるのは、この光をこぼむからである。この過程は徐々にほとんど気がつかない場合が多い。光は、神のみことばを通し、神のしもべたちを通し、あるいはみたまの直接の働きによって魂にのぞむ。だが一すじの光が無視されると、霊的知覚力が部分的に麻痺し、次に光があらわされたとき、それは前ほどはつきりみとめられなくなる。こうして暗さが増し、ついには魂に夜がおとずれる。……

暗黒の王国の支配にはいるためには、わざわざその国の奉仕をえらぶ必要はない。光の王国と同盟することをおこたりさえすればよい。……聖霊に対する罪として最も一般的なものは、悔い改めをうながす天の招きをどこまでもあなどることである。キリストをこぼむ一歩一歩は、救いをこぼみ、聖霊に対して罪を犯す一歩である。(各時代の希望中巻 38～42)

魂がキリストに屈服するとき、新しい力が新しい心を占領する。人が自分自身ではなしとげることのできない変化が行われる。それは超自然の働きであって、人の性質に超自然の要素をもたらす。キリストに屈服した魂は、キリストご自身のとりでとなり、キリストはそれをそむいた世の中に保たれる。キリストはそこでご自身の権威よりほかの権威がみとめられないように望まれる。このように天の勢力によって占領された魂はサタンの攻撃に攻め落されることがない。(同上 41)

わたしたちの疑いによって悲しまれる

「神の聖霊を悲しませてはいけない。あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。」(エペソ 4:30)

神の愛を疑い、神の約束に信頼しないならば、神をはずかしめ、聖霊を悲しませるのである。……天の父もわたしたちにいのちを与えるためにひとり子を賜うたその愛をわたしたちが信じなかったならば、わたしたちを顧みることができであろうか。使徒は「ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか」(ローマ 8:32)と言っている。けれども、口で言わなくても、その行いで、「神はわたしにこう言っておられるのではない。多分、神はほかの人々を愛されるかもしれないが、わたしを愛しておられるのではない」と言っている人がたくさんいる。(キリストへの道 164, 165)

信仰は神をそのみ言葉通りに信じ、おとずれる厳しい経験の意味を理解することを求めはしない。しかし、ほとんど信仰のない人が多い。……そして彼らが困難に会うと、神へ駆り立てられる代わりに、不安な気持ちを起こしてぐちをこぼし、神から引き離されてしまう。彼らはこれほど信じなくて良いであろうか。イエスは彼らの友であられる。全天は、彼らの幸福に関心を持っている。そして彼らの恐れと不満は聖霊を悲しませる。神がわたしたちの言うことを聞いて下さるのを見たり感じたりするから、信じるのではない。わたしたちはこのお方のみ約束に信頼しなければならない。……わたしたちがこのお方の祝福を求めるとき、それを受けると信じ、それを持っていることを感謝すべきである。それから、祝福はわたしたちがそれを最も必要としているときに送られることを確信して、自分たちの義務に取りかかるべきである。(福音宣伝者 261)

聖霊を悲しませるとは、深刻なことである。そして、人間の代理人が自分で働こうとして、十字架が重すぎるから、あるいは自己否定が大きすぎるからといって主の奉仕に入ることを拒むとき、聖霊は悲しまれる。聖霊はそれぞれの魂に宿ることを求めておられる。もし聖霊が貴賓として歓迎されるならば、受け入れる人々はキリストのうちに完全にされる。(健康への勧告 561)

わたしたちは力を尽くして、キリストのうちに満ちみちた男女の高さに至るために、奮闘しているのであろうか。わたしたちはこのお方の満ちみちた徳を求め、たえずわたしたちの前におかれている目標—このお方のご品性の完全—を目指して押し進んでいるであろうか。主の民がこの目標に達するとき、彼らの額には印が押される。御霊に満たされて、彼らはキリストのうちに完全になり、記録天使は、「すべてが終わった」と宣言する。(SDA パイブル・コメント [E.G. ホワイト・コメント] 6 巻 1118)

求める人々のために

「わたしはあなたがたの神、主であるから、あなたがたはおのれを聖別し、聖なる者とならなければならない。わたしは聖なる者である。」(レビ記 11:44)

神の徳をその子らにお与えになることは、神の栄光である。神は人々が最高の標準に達するのをご覧になりたいと望んでおられる。そして、信仰によってキリストの力をつかみ、主の確かなみ約束に訴えてそれを自分のものとして求め、拒まれないようしきりに聖霊の力を求めるならば、彼らはキリストのうちに完全にされるのである。……

キリストのようになる、すなわち、律法のあらゆる原則に従うというすばらしい可能性が、信者の前に提供されている。しかし、人は自分でこの状態に到達することは全くできない。人は救われる前にきよくならねばならないと神のみことは言明しているが、このきよさは、彼が真理のみ霊の訓練や抑制する感化力に身を低くして従うときに、神の恵みが働いて生じるものである。キリストの義のかおりによってはじめて、人は完全に従順になることができる。キリストの義は従順な行為の一つ一つを神の香気で満たす。クリスチャンの役割は、一つ一つの罪に辛抱強くうち勝つことである。彼は罪に悩む自分の魂の乱れをいやしていただくように、救い主に絶えず祈らなければならない。彼にはうち勝つ知恵も力もない。これは主のもので、主は、謙遜に悔いて助けを求めてくる者たちにこれらを授けて下さる。(患難から栄光へ下巻 230, 232)

聖霊はその力と恵みを求める人々に与えられ、わたしたちが神に謁見するとき、わたしたちの弱さを助けて下さる。天はわたしたちの嘆願に対して開かれており、わたしたちは「あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づ」くよう招かれている(ヘブル 4:16)。わたしたちは信仰のうちに来て、まさにこのお方に求めたものを受けると信じるべきである。(天国で 80)

もしあなたが自分の魂の必要を感じるなら、もしあなたが義に飢えかわいているなら、それこそキリストがずっとあなたの心に働いておられる証拠である。それは主が聖霊の賜物を通して、あなたが自分ではすることができないことをあなたのためにしてくださるよう、あなたが主を求めるようになるためである。(祝福の山 23, 24)

もしわたしたちが魂から自己を空にするならば、わたしたちの必要はみな満たされる。(教会への証 7 巻 213)

ペンテコステの力

「使徒たちは主イエスの復活について、非常に力強くあかしをした。そして大きなめぐみが、彼ら一同に注がれた。」(使徒行伝 4:33)

ペンテコステの当日、聖霊が注がれたその結果はどうであつたろうか。復活された救い主についての喜ばしい知らせは、人の住むところにはどこにでも伝えられた。弟子たちがあがないの恵みについての使命を伝えると、人々の心はこの使命の力に従った。教会は四方から集まってくる改心者を見守った。信仰を棄てた人々ももう一度悔い改めた。罪人たちは、高価な真珠を求めて信者たちに加わった。福音に最も激しく反対していた人々もその擁護者になった。……どのクリスチャンもみな、お互いのうちに神の愛と慈善心があらわれているのを見た。ただ一つの関心が支配し、一つの対象を求める熱意が他のすべてをのみこんだ。信徒の望みはキリストのご品性に似たものとなることであり、神の国を発展させるために働くことであった。

「使徒たちは……非常に力強くあかしをした。」(使徒行伝 4:33)。彼らの働きによってすぐれた人々が教会に加えられた。これらの人々は真理のこぼれを受け入れて、自分たちの心によるこびと平安を満たしてくれた望みを、他人に分け与える働きに生涯をささげた。彼らはどんな脅迫によっても、拘束されたり脅かされたりすることはなかった。主は彼らによってお語りになり、彼らの行く先々で、貧しい者たちは福音が自分たちに語られるのを聞いた。そして、神の恵みの奇跡が起こった。人が聖霊の支配に身をゆだねる時、神はこのような大いなる働きをなさることができるのである。(患難から栄光へ上 44, 45)

最初の弟子たちのように、今日御霊の約束は、わたしたちのものである。神はペンテコステの日に救いの言葉を聞いた人々に与えて下さったように、今日男女に上よりの力を与えて下さる。まさにこの時、このお方の御霊と恵みは、それらを必要とし、ご自分をその言葉通りに信じるすべての人々のためである。……

神への熱心さが、弟子たちを動かし、偉大な力をもって真理のための証を担わせた。この熱心さがあがないの愛の物語、キリスト、しかも十字架につけられたキリストの物語を伝えるとの決心をもって、わたしたちの心を燃やさないのだろうか。熱心で辛抱強い祈りに答えて、神の御霊が今日おとずれ、奉仕のための力をもって人々を満たすべきではないだろうか。(教会への証 8 巻 20 ～ 22)

それを求めよ

「このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物をすることを知っているとすれば、天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さないことがあるか」。(ルカ 11:13)

わたしたちの主は、恵みに富み、力強い。このお方はこれらの賜物を、信仰のうちにご自分の許へ来るすべての人に豊かに授けて下さる。……わたしたちは弟子たちがペンテコステの日に祈ったように、聖霊の降下を求めて熱心に祈るべきである。もし彼らがその時それが必要であったとすれば、わたしたちは今日さらにそれを必要としている。道徳的な闇は、葬儀の棺のように地を覆っている。あらゆる形式の偽りの教理、異端、悪魔的な欺瞞が、人々の思いを誤り導いている。御霊と神の力なくしては、わたしたちが真理を提示するために労してもむだになる。(教会への証 5 巻 157,158)

キリストの恵みによって、使徒たちはあのと通りの使徒となった。彼らをキリストとの密接な交わりのうちに導き入れたのは、まじめな献身とへりくだった真剣な祈りであった。彼らは天国でこのお方と共に座った。彼らは自分たちがどれほど多くこのお方に負うものであるかを悟った。熱心で辛抱強い祈りによって、彼らは聖霊の賜物を得た。それから、彼らは魂を救う重荷を負いながら、出ていった。……わたしたちは使徒たちよりも熱心さが少ないであろうか。(教会への証 7 巻 32)

これこそわたしたちが力を受ける手段なのだから、御霊の賜物を飢え渴くように求めようではないか。それについて語り、そのために祈り、そのことについて説教しようではないか。……御霊のバプテスマを日ごとに受けるためには働き人がめいめい神に願いを捧げなければならない。クリスチャンの働き人は仲間同士集まって、いかに計画し、賢く実行するかということを知ることができるように、特別な助けと天来の知恵を求めなければならない。(患難から栄光へ上巻 46)

一日一日永遠に過ぎ去っていき、わたしたちを恩恵期間の終了へ近づける。わたしたちはかつてなかったほど、聖霊をもっと豊かに授かるように祈り求めなければならない。そしてわたしたちは働き人たちの上に聖霊の聖化する感化が及ぶよう求めなければならない。……

神の御霊の感化力の下にいる人々は、狂信的ではなく、静かで変わらず、思想や言葉や行いにおいて行き過ぎることがない。紛らわしい教理の混乱のただ中で、神の御霊は導き手となり、真理の証拠を拒んだことのない人々を守り、真理であられるお方から来る声の他はみな沈黙させて下さる。(福音宣伝者 288,289)

後の雨

「あなたがたは春の雨の時に、雨を主に請い求めよ。主はいなずまを造り、大雨を人々に賜い、野の青草をおのおのに賜わる。」(ゼカリヤ 10:1)

種まき時と、収穫のころに東方の国々に降る前の雨、後の雨という比喻を用いて、ヘブルの預言者たちは、神の教会に異常なほど豊かに霊的恵みがさずけられることを預言した。使徒の時代の聖霊の降下は前の雨、またはさきの雨の始まりであった。そして、その結果はすばらしかった。……地上の収穫が終わりに近くなると、教会を人の子イエスの来臨に備えるために、霊的な恵みが特別に与えられると約束されている。この聖霊の降下は後の雨にたとえられている。クリスチャンは「春の雨(後の雨)の時」にこの特別の力を収穫の主に求めなければならない。(患難から栄光へ上巻 51)

キリストがペンテコステの日に栄光を受けられたように、このお方はまた福音の働きが閉じるとき、すなわち民を大争闘の最終戦における最後のテストに耐える準備をおさせになるときに栄光を受けられる。(SDA バイブル・コメント [E.G. 初刊・コメント] 7 巻 963)

多くの人々は、……あちらこちらと急いで、神の御霊に迫られて他の人々に光を伝えるために馳せ回るのが見られるであろう。真理、すなわち神のみ言葉は彼らの骨のうちに火のようで、闇の中に座している人々を照らしたいとの燃える願いで彼らを満たす。多くの人々は、教育を受けていない人々の間でさえも、今や主のみ言葉を宣布する。子供たちは御霊に押されて出ていき、天からのメッセージを宣言する。御霊はその働きかけに明け渡すすべての人に注がれ、そして……彼らは御霊の力の権威をもって真理を宣布する。(伝道 700)

しかし、今日、神の教会の信徒たちは、すべての霊的成長の源であられる神との強いつながりを持っていなければ、刈り入れの時に備えていることにならないであろう。彼らは絶えずランプの芯を切りそろえて、燃やしていなければ、いざというときに特別の恵みにあずかることができない。(患難から栄光へ上巻 52)

神聖な恵みは始めに必要であり、前進する一歩ごとに必要であり、また神聖な恵みだけが働きを完成させることができる。わたしたちには不注意な態度で休息するような場所はない。……祈りと信仰によって、絶えずさらに多くの御霊を求めるべきである。(牧師への証 508)

研究 3

最後の出来事



「ヤコブの悩み (I)」

—大患難 (大いなる悩み) の時—

これから二回にわたり、大患難 (大いなる悩み)、すなわちヤコブの悩みの時について研究していきます。

「その時あなたの民を守っている大いなる君ミカエルが立ちあがります。また国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みの時があるでしょう。しかし、その時あなたの民は救われます。すなわちあの書に名をしるされた者は皆救われます。また地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者は目をさますでしょう。そのうち永遠の生命にいたる者もあり、また恥と、限りなき恥辱をうける者もあるでしょう。賢い者は、大空の輝きのように輝き、また多くの人を義に導く者は、星のようになって永遠にいたるでしょう」(ダニエル 12:1～3)。

上記のみ言葉の中には、わたしたちが必ず理解しなければならない真理と事件があります。これを要約してみますと次の通りになります。

- a. その時
- b. 大いなる君ミカエル
- c. 国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みの時
- d. 書に名をしるされた者
- e. 特別な復活
- f. 救われた者の報い

a. その時

ダニエル 12:4、9 には、「終りの時」という言葉があります。そして、これについてさらに詳しい説明が次の聖句にあります。「彼は言った、『二千三百の夕と朝までである。そして聖所は清められてその正しい状態に復する』」（ダニエル 8:14 英文訳）。前記のみ言葉によって、二千三百の夕と朝の終り、すなわち一八四四年に、聖所の清めの働き、あるいは調査審判が天の至聖所で始まったことがわかります。また、この聖所の清めの働きが終わったとき、悩みの時が始まることもわかります。預言の霊は次のように語っています。

「イエスが聖所を去られると、暗黒が地の住民をおおう。その恐ろしい時に、義人は仲保者なしに聖なる神のみ前に生きなければならない。…神の忍耐は終わった。世は神のあわれみを拒み、その愛をさげすみ、その律法をふみにじってきた。悪人は恩恵期間の限界を越えた。頑強に拒まれてきた神の御霊は、ついに取り去られた。…その時サタンは、地の住民を大いなる最後の悩みに投げ入れる」（各時代の大争闘下巻 386）。

「その時」というのは、わたしたちの仲保者イエス・キリストが「至聖所の働きを終えられる時」であることがわかります。

b. 大いなる君ミカエル

聖書の中に『ミカエル』という言葉は、ダニエル 10:13、21、ユダ 9、黙示録 12:7 に出てきます。そして、ダニエル 12:1 には、「大いなる君ミカエル」という言葉があります。これはキリストに当てはまるということが次の証を通してわかります。『『わたしは神のみまえに立つガブリエルである』…ダニエルにメッセージをたずさえてきたとき、彼は『わたしを助けて、彼らと戦う者は、あなたがたの君ミカエル（キリスト）のほかにはありません』と言った（ダニエル 10:21）。』（各時代の希望上巻 97）。

「…イエスがなおイスラエルのために執り成しておられるのを見た。…それから、すべての者の運命が、救いかまたは滅びかに決定されるまで、イエスは至聖所から出られないこと、また、イエスが至聖所における働きを終了し、彼の祭司の服を脱いで、報復の衣をまとわれるまでは、神の怒りが下らないことを、わたし

は見た。…国の怒り、神の怒り、そして死者を裁くときなどは、全く別の事件であって、相次いで起こるものであり、また、ミカエルは立ち上がっておらず、かつてなかったほどの悩みの時はまだ始まっていないことを、わたしは見た。今、国々は怒りつつあるが、われわれの大祭司が、聖所における働きを終えられて立ち上がり、報復の衣をまとわれるときに、いよいよ最後の七つの災いが注がれるのである」(ライ・スケチ 116, 117、初代文集 96, 97 をご参照下さい)。

c. 国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みの時

この悩みの時について聖書は次のように語っています。「その時には、世の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような大きな患難が起こるからである。…その期間が縮められるであろう」(マタイ 24:21、22)。

「子を産む男があるか、尋ねてみよ。どうして男がみな子を産む女のように手を腰におくのをわたしは見るのか。なぜ、どの人の顔色も青く変っているのか。悲しいかな、その日は大いなる日であって、それに比べるべき日はない。それはヤコブの悩みの時である。しかし彼はそれから救い出される」(エレミヤ 30:6、7)。

『かつてなかったほどの悩みの時』が、まもなくわれわれの前に展開する。それだからわれわれには、一つの経験—今われわれが持つておらず、また多くの者が怠けて持とうとしない経験—が必要なのである。現実の困難というものは、予想したほどではないということがしばしばある。しかし、われわれの前にある危機の場合は、そうではない。どんなに生々しく描写しても、この試練の激しさには、とうてい及ばない。この試練の時に、人間は、みな、自分で神の前に立たなければならない」(各時代の大争闘下巻 396、397)。

d. 書に名をしるされた者

これはだれのことであり、また何を意味するのでしょうか。

「あなたがたの名が天にしるされていることを喜びなさい」(ルカ 10:20)。

「勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである。わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを、決してしない。また、わたしの父と御使たちの前で、その名を言いあらわそう」(黙示録 3:5)。

「地に住む者で、世の初めからほふられた小羊のいのちの書に、その名をしるされていない者はみな、この獣を拝むであろう」(黙示録 13:8 英文訳)。

「シオンに残る者、エルサレムにとどまる者、すべてエルサレムにあつて、生命の書にしるされた者は聖なる者となえられる」(イザヤ 4:3, 4 合節)。



e. 特別な復活

悩みの時に起こる事件の中で終りの時代に住んでいる神の民の生涯に活力を与える重要な事件は、特別な復活です。

「地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者は目をさますでしょう。そのうち永遠の生命にいたる者もあり、また恥と、限りなき恥辱をうける者もあるでしょう」(ダニエル 12:2)

彼らは共に復活しますが、一方は永遠の生命を受ける者であり、またもう一方は恥と、限りなき恥辱を受ける者であることがわかります。それでは、彼らはどのような人々であるかについて研究していきましょう。

e-1. 永遠の命を受ける者はだれか

「善をおこなった人々は、生命を受けるためによみがえり、…」(ヨハネ 5:29)。「墓が開かれる。『地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者は目をさますでしょう。そのうち永遠の生命にいたる者もあり、…』(ダニエル 12:2)。第三天使の使命を信じて死んだ者はみな、栄化されて墓から現われ、神がご自分の律法を守った者たちと結ばれる平和の契約を聞くのである。」(各時代の犬争闘下巻 415)。

e-2. 恥辱を受ける者はだれか

「悪をおこなった人々は、さばきを受けるためによみがえって、…」(ヨハネ 5:29)。

「イエスは彼らに言われた、『あなたの言うとおりである。しかし、わたしは言うておく。あなたがたは、間もなく、人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう』(マタイ 26:64)。『彼を刺しとおした者たち』(黙示録 1:7)、キリストの死の苦しみをあざ笑った者たち、そして、キリストの真理とその民とに対して最も激しく反対した者たちは、栄光をまとわれたキリストをながめるために、また、忠実で従順な者たちに与えられる誉れを見るために、よみがえらせられる」(各時代の犬争闘下巻 415)。

f. 救われた者の報い

「神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである」(ローマ 6:23)。

「勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である」(黙示録 3:21)。

「十四万四千の人々は、このガラスの海の上に、真四角に並んだ。とても明るい冠をかぶっている者もあれば、それほど明るくない者もあった。星が重そうについた冠もあればわずかしかついていないものもあった。すべての者は、自分たちの冠に心から満足していた」(初代文集 66)。

「彼らは、また豊かな報償を受ける。彼らの喜びの冠には、彼らに助けられ、

ついに救われた人々が星のように永遠に輝く。彼らは、人々が現代の真理を深く愛して、それに清められ、豊かにされて、小羊の血によって洗われ、神のみもとに贖われるというはかり知れない特権にあずかるために、現代の真理を純粹に美しく伝えることができた満足を永遠にわたって味わうのである」(初代文集 135)。

ました。人類の創造以来、サタンはわたしたち一人ひとりの心に邪悪なねたみのタネを植えつけようと働いてきました。彼は人々のうちに、自分がキリストに対していただいているのと同じ冷たくかたくななしつとを引き起こします。

サタンは完全で、純潔で、聖なるお方をねたんでいます。しかし、人が罪人をねたむとき、サタンよりもさらにおろかなことをしています。罪人のうちに何かうらやむようなことがあるでしょうか？罪人はあなたが考えるよりもずっと弱いです。彼らの持っている大きくてすてきなものはみな、終わりには焼きつくされてしまいます。彼らの命でさえ、もし彼らが完全に自分たちの心をキリストにあげわたすなら、かろうじて救われるだけです。そしてもし彼らが自分たちの心をキリストにあげわたすなら、あなたは彼らがあなたにもっと親切（しんせつ）になるのもっと好きになることがわかるでしょう。これがわたしたちすべての人に対する神のご計画（けいかく）です。わたしたちが一日中神への恐れのうちにとどまっているなら、他の人々もわたしたちと同じように神の子であることに気づくのです。わたしたちはみな一つの大家族の一員なので、お互いに親切になります。そしてキリストの創造の力によって、おろかなねたみは、愛に変わります。「彼らは見て、人々に対する彼らのねたみを大いに恥じ」るようになります（イザヤ 26:11 英語訳）。「わたしたちも以前には、無分別（むふんべつ）で、不従順（ふじゅうじゅん）な、迷っていた者であって、さまざまの情欲と快楽との奴隷になり、悪意とねたみとで日を過ごし、人に憎まれ、互に憎（にく）み合っていた。ところが、わたしたちの救主なる神の慈悲（じひ）と博愛（はくあい）とが現れたとき、わたしたちの行った義（ぎ）のわざによってではなく、ただ神のあわれみによって、再生の洗いを受け、聖霊（せいれい）により新たにされて、わたしたちは救われたのである。この聖霊は、わたしたちの救主イエスキリストをとおして、わたしたちの上に豊かに注がれた」（テトス 3:3-6）。

イギリス風レンズ豆ローフ

〔材料〕

レンズ豆	1 カップ 3/4 (調理後およそ 4 カップ)
たまねぎ (みじん切り)	2 カップ 1/4
にんにく (みじん切り)	小さじ 1
オリーブオイル	大さじ 2
トマトピューレ	1 カップ 1/2
豆乳	1/2 カップ
セロリ (みじん切り)	1 カップ 1/2
ピーマン (みじん切り)	大さじ 3
セージ	小さじ 3/4
塩	小さじ 2
オニオンパウダー	大さじ 1
くるみ (みじん切り)	1 カップ
全粒粉	1/4 カップ
ケチャップ	(トマトピューレ 1 カップ、はちみつ大さじ 1、レモン小さじ 1、塩小さじ 1)

〔作り方〕

1. ケチャップの材料をすべて火にかけて、沸騰させてから火をとめる。
2. レンズ豆をなべに入れ、レンズ豆より 8 センチほど上まで水を入れて沸かす。
3. 沸騰したら、弱火にしてふたをし、やわらかくなるまでとろ火で煮る。
4. 水を捨てて、ボールにあける。
5. たまねぎとにんにくを油でいためる。
6. 残りの材料とともにレンズ豆を加えて、よくまぜる。
7. 油をぬったオーブン用の器 (20cm*20cm) に入れ、170 度のオーブンで 1 時間ほど焼く。
8. オーブンから取り出し、1. のケチャップをかけて、15 分焼く。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



ものごとをありのままに見る

「心に罪びとをうらやんではならない、ただ、ひねもす主を恐れよ。」

(箴言 23:17)

だれかを「うらやむ (ねたむ)」というのは、どういう意味でしょう？
ときどき、わたしたちが本当に欲しいと思う家やおもちゃを、他の人がもっているかもしれません。もしわたしたちがそれらのものをほしがるように誘惑 (ゆうわく) されるとしたら、わたしたちはまたそれを持っている人をねたむように誘惑されるかもしれません。ねたむとは、人やその人の持っているものにしつとを感じるという意味です。ときには、彼らの持っているものが、物や物体 (ぶつたい) でさえないかもしれません。それは、彼らの家族だったり、あるいはたくさんの人に好かれているという事実だったりするかもしれません。もしかしたら、彼らはハンサムだったり、きれいだったりするかもしれません。もしかしたら、むずかしい宿題が彼らには簡単だったり、あるいは彼らは暗記が良くてできたり、あるいは楽器がひけるかもしれません。他の人が持っていたても、わたしたちにはないタラントがたくさんあります。

あなたがどんなに大きな家に住んでいても、またどんなにたくさん自分のおもちゃを持っていたても、どんなにたくさんのことを頭にたくわえていても、いつでももっとたくさん持っている人がいるものです。天使ルシファーは、天でこのことに気づきました。彼は天使たちの中で一番高い地位についていました。彼は最も美しく、もっとも音楽の才能があり、合唱隊の指揮をすることができました。しかし、そこにはもっと持っておられるお方がいました—それはキリストでした。ルシファーがキリストをうらやむとは、まったくおかしいことでした。ルシファーは創造 (そうぞう) されたものにすぎませんでした。キリストは創造主でした。ルシファーはむしろ命があること、神が自分に与えて下さったすばらしいタラントを用いて自由に楽しむことを感謝しているべきでした。

ルシファーが神に対して反逆し、サタンとなったときに、この地に下ってき